

## 令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第2学年	国語	216人	社会	216人	数学	216人
	理科	216人	英語	215人		

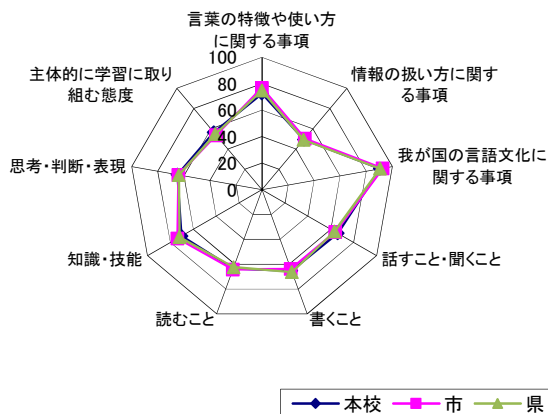
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立清原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	72.6	76.9	74.9
	情報の扱いに関する事項	49.5	50.3	49.2
	我が国の言語文化に関する事項	90.7	92.6	90.7
	話すこと・聞くこと	66.0	64.2	63.4
	書くこと	65.2	63.7	66.4
	読むこと	63.6	64.2	62.5
観点	知識・技能	70.3	73.7	71.9
	思考・判断・表現	64.9	64.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	56.6	53.8	54.8



## ★指導の工夫と改善

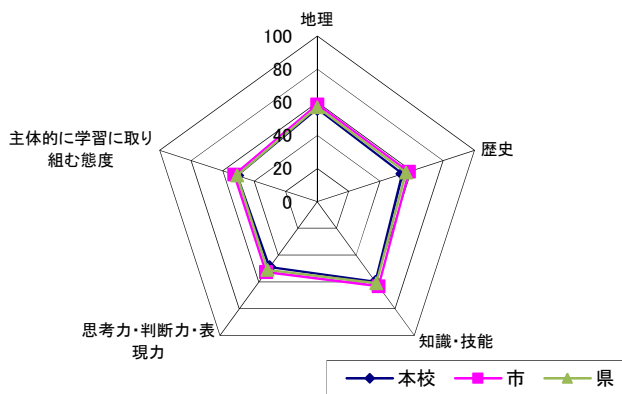
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも2.3ポイント、市の平均よりも4.3ポイント低い。</p> <p>○漢字を読む問題で、「たの(む)」は県の平均正答率を0.2ポイント上回っている。</p> <p>●文法・語句に関する事項で、単語について正しく理解しているかどうかを見る問題で、県の平均正答率を大幅に下回っている。</p> <p>●故事成語に関する問題は、県の平均正答率を7.4ポイント下回っている。</p>	<p>・単語がその性質から自立語と付属語とに大別されることや、いくつかの品詞に分類されることなどについて理解する必要がある、それぞれの単語のもつ文法的な役割とともに、それぞれの品詞が文のどのような成分になるかなどを理解することが必要であると考えられる。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>本校の平均正答率は、県の平均とほぼ同じだが、市の平均よりも0.8ポイント低い。</p> <p>○情報と情報との関係について理解し、自分の考えが明確になるように、話の構成を考える問題は県の平均正答率を4.3ポイント上回っている。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して内容を解釈している問題は県の平均正答率を3.7ポイント下回っている。</p>	<p>・情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈するように指導する。</p> <p>・情報と情報との関係について理解し、自分の考えが明確になるように、話の構成を考えるように指導する。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>○本校の平均正答率は、県の平均と同じだが、市の平均よりも1.9ポイント低い</p> <p>○文法・語句に関する問題で歴史的仮名遣いについて理解しているかどうかを見る問題は県の平均正答率と同じである。</p>	<p>・古典作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむようにする。</p> <p>・古典の文章の現代語訳や語注などを手がかりにして作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を理解するようにする。</p> <p>・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えをひろげたり深めたりするようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも2.6ポイント、市の平均よりも1.8ポイント高い。</p> <p>○話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる問題は県の平均正答率を5.8ポイント上回っている。</p> <p>○自分の考えが明確になるように、話の構成を考える問題は県の平均正答率を4.3ポイント上回っている。</p>	<p>・自分の考えが明確になるように、話の構成を考えたり、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫するように指導する。</p> <p>・必要に応じて記録しながら話の内容を捉えたり、自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考えるように指導する。</p>
書くこと	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも1.2ポイント低いが、市の平均よりも1.5ポイント高い。</p> <p>○読み取った内容を明確にして書く問題は、県の平均正答率を0.4ポイント上回っている。</p> <p>●自分の考えを明確にして書く問題は、県の平均正答率を1.9ポイント下回っている。</p>	<p>・複数の資料を比較し、調べたことをもとに考えを形成して書く活動を通して、段落の役割を踏まえて構成や展開を考える学習や、自分の考えの根拠となる複数の事例や専門的な立場からの知見を引用しながら考えを書く学習活動が必要であると考えられる。</p>
読むこと	<p>本校の平均正答率は、県の平均1.1ポイント高いが、市の平均よりも0.6ポイント低い。</p> <p>○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする問題は、県の平均正答率を5.4ポイント上回っている。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して内容を解釈する問題は、県の平均正答率を3.7ポイント下回っている。</p>	<p>・登場人物の心情について、描写をもとに捉えたり、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするよう指導する。</p> <p>・文章の内容について叙述をもとに捉えたり、文章の構成や展開について論拠を明確にして考えるように指導する。</p>

# 宇都宮市立清原中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	56.0	58.7	57.0
	歴史	54.2	58.3	56.4
観点	知識・技能	59.9	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	48.9	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	50.9	52.6	50.8



## ★指導の工夫と改善

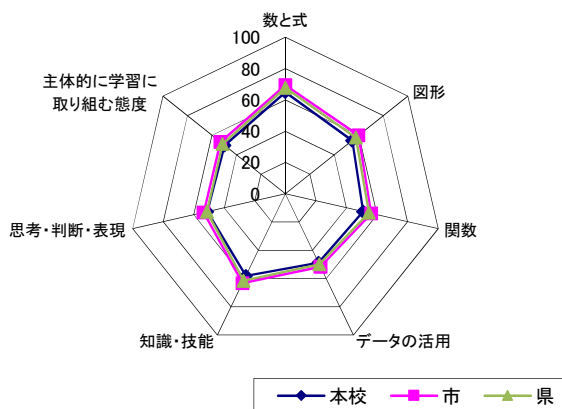
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>平均正答率は、県平均とほぼ同じで、市平均よりも2.8ポイント低い。</p> <p>○日本の緯度・経度についての理解をもとにした読み取りが県の平均正答率より6ポイント高く、日本の姿について理解が深まっている。</p> <p>○アジア州での農業生産について、資料をもとに考察する問題では、市の平均正答率より5.6ポイント高く、資料をもとに考察することが良くできている。普段の授業において、基本資料と関連付けて考えたり、グループ活動による協同的な学びで考えを深めさせたりした成果であると考え。</p> <p>●世界各地の気候や乾燥した地域に住む人々の暮らしについて、複数資料をもとにした考察が、県の正答率より8ポイント低い。</p> <p>●アメリカ合衆国の多様な人種について考察する問題では、県の平均正答率より7.9ポイント低い。</p>	<p>・今後も授業における複数資料の読み取りや、課題に対する考えのまとめ、協同的な学びを取り入れ、理解を図れるようにする。</p> <p>・世界の諸地域の学習では、写真資料や映像資料を用い、より実際の様子を感じられるように工夫する。</p> <p>・雨温図をもとにした世界各地の気候の特色のまとめを行い、雨温図からどのような特徴があるかを判断できるようにする。</p>
歴史	<p>平均正答率は、県平均と比べて2.2ポイント低く、市平均よりも4.1ポイント低い。</p> <p>○年代の表し方や時代区分について問う問題では、県の平均正答率より2.5～4ポイント上回っている。</p> <p>○室町時代の民衆の生活を問う問題では、県の平均正答率より7ポイント高く、知識が定着している生徒が多い。</p> <p>●勘合貿易についての理解が、県の平均正答率より大幅に低く、各時代の貿易について曖昧になってしまっている。</p> <p>●活用問題の記述解答は、県の平均正答率と大きく変わらないが、記述する力自体が弱い。</p>	<p>・歴史的事象による社会の変化や与える影響についての理解や考察が弱いので、1つ1つ分断して理解するのではなく、大きな流れとして捉えられるように指導を続けていく。そのために、年表を用いたり、相関図等を用いて理解を促したい。</p> <p>・重要語句について小テストなどを行い反復練習を繰り返して、基礎的な知識の定着を図る。</p> <p>・記述問題に抵抗を持たないために、授業で考えをまとめさせる、振り返りを書かせる、書いたことを小グループで発表するなどを行い、表現する力を養っていきたい。</p>

# 宇都宮市立清原中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	64.9	69.3	67.7
	図形	54.6	59.8	57.7
	関数	50.8	56.2	54.7
	データの活用	48.8	51.6	49.9
観点	知識・技能	58.1	63.2	61.5
	思考・判断・表現	51.1	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	49.6	53.0	51.2



## ★指導の工夫と改善

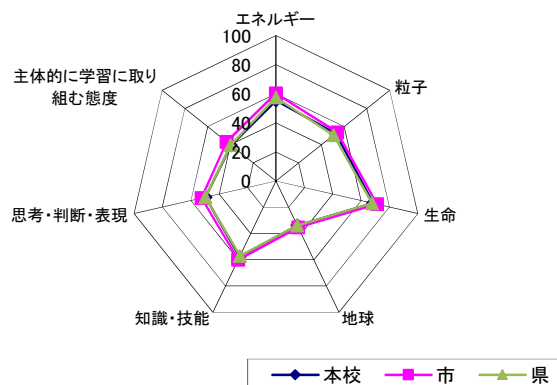
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○「素因数分解」の問題の正答率が県平均と比べ10.0ポイント高くなっている。</p> <p>●「負の数の減法」の問題の正答率が県平均と比べ11.4ポイント、「1次式の減法」の正答率が県平均と比べ6.8ポイント、「移行を必要としない1次方程式を解く」問題の正答率が県平均と比べ6.7ポイント低くなっている。</p>	<p>・中1の正負の数の四則計算の段階でつまづいている生徒もいる。負の数の考え方は中学校に入って学習する内容であり、生徒にとっては苦手意識がある。補助教材や自主学習ノート等を活用し、計算の練習を継続的にを行い、単元テスト等を行い、達成度が形として分かるようにしていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○平面図形の線対称と回転移動の問題では、数ポイントほど県の正答率を上回っている。</p> <p>●「扇形の面積を求める」問題の正答率が県平均と比べ9.0ポイント、「ねじれの位置関係を答える」問題の正答率が県平均と比べ5.2ポイント、「平面図形」問題の正答率が県平均と比べ6.6ポイント低くなっている。</p>	<p>・空間図形が課題である。特に空間図形に関する知識の部分は使用頻度が少ないこともあり、正しく理解していない生徒がいるのが現状である。また、平面とは違い高さの関係も調べる必要があるため、多くの練習問題を通して学習する必要がある。表面積や体積などを求める計算では、求め方を今一度確認し、問題で何を問われているのかを理解して解けるようにする。</p>
関数	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○関数のグラフの問題では、正しい関係を示したグラフを選ぶ問題で、県の正答率を数ポイント上回っている。</p> <p>●「関数について問われた」問題の正答率が県平均と比べ7.6ポイント、「グラフをかく」問題の正答率が県平均と比べ10.2ポイント低くなっている。</p>	<p>・式化することができても、活用ができていない生徒がいる。関数は、式・表・グラフの関係が理解できていないと内容を深く理解できないため、再度確認する必要がある。これら3つの関わりが中1での比例・反比例を考えるうえで非常に重要である。記述も苦手なので、自分の言葉で筋道を立てて記述する習慣をつけるとともに、説明させる機会をつくる。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○「相対度数を用いるデータの分布」の問題の正答率が県平均と比べ5.4ポイント高くなっている。</p> <p>●データの分布の傾向を調べる問題では、代表値や階級の度数など、データを活用する問題に苦手がある。また、自分の言葉で説明する問題では、県の正答率を数ポイント下回っている。</p>	<p>・相対度数や累積度数の求め方だけでなく、その値の持つ意味を理解させる。また、単に求め方や意味を理解するのではなく、身の回りの事例なども参考にしながら、記述したり説明したりする活動を授業の中で行っていく。</p>

# 宇都宮市立清原中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	55.4	60.3	57.4
	粒子	52.5	53.8	50.7
	生命	68.5	71.2	67.8
	地球	33.9	35.3	33.8
観点	知識・技能	57.7	59.9	57.0
	思考・判断・表現	49.6	52.4	49.7
	主体的に学習に取り組む態度	39.5	43.3	39.8



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

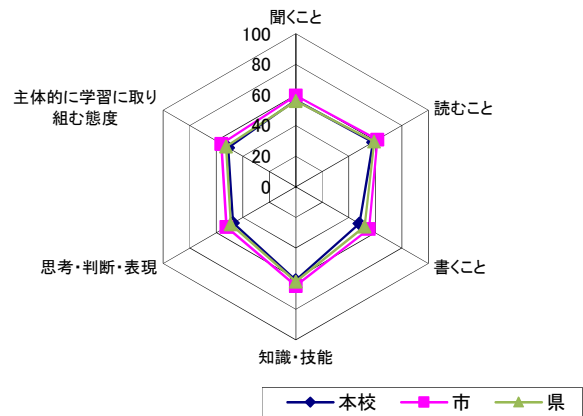
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも2ポイント、市の平均よりも4.9ポイント低い。</p> <p>○おもりにはたらく重力とばねののびの関係をグラフで表す問いは県の平均正答率を17ポイント上回っている。</p> <p>○虹のような帯が見える現象が光の屈折に関する現象であること問いは、県の平均正答率を12.4ポイント上回っている。</p> <p>●おもりがばねを引く力についての問いは、県の平均正答率よりも18ポイント下回っている。</p> <p>●弦をはじいたときの振れ幅を、「振幅」という問いは、県の平均正答率よりも10.3ポイント下回っている。</p> <p>●音を高くする方法と振動数の関係を選ぶ問いは、県の平均正答率よりも18.8ポイント下回っている。</p>	<p>・物体の位置と実像の大きさの関係、音の高さと振動数の関係など、きちんと整理して覚えないと間違えやすい。自分で表にまとめさせることで正しく理解させたい。</p> <p>・フックの法則などの比例の計算は、理科では多く出てくるため、定着するように問題演習を増やしていきたい。</p>
粒子	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも1.8ポイント高く、市の平均よりも1.3ポイント低い。</p> <p>○水とエタノールの混合物を加熱したときに発生する気体についての問いは、県の平均正答率よりも6.4ポイント上回っている。</p> <p>●水素の性質の知識を適用して、水素自動車は、水を排出することを指摘する問いは、県の平均正答率よりも9.7ポイント下回っている。</p>	<p>・基本的な知識は定着しているもので、その知識を使って応用問題が解けるようにさせたい。</p>
生命	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも0.7ポイント高く、市の平均よりも1.4ポイント低い。</p> <p>○セキツイ動物と無セキツイ動物に分類する問いは、県の平均正答率を4.9ポイント上回っている。</p>	<p>・推測したり説明したりすることを苦手としている生徒が多い。グループで話し合う機会が多いが、その前に自分の考えをきちんとまとめて説明させ、表現する力を身に付けさせたい。</p> <p>・動物に関する内容には、興味が強いため様々な動物の例をあげて生徒の知識を増やしていきたい。</p>
地球	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも0.1ポイント高く、市の平均よりも2.7ポイント低い。</p> <p>○たくさんの花が集まって1つの花をつくっているように見えるつくりをもつ植物に関する問いは、県の平均正答率を8.6ポイント上回っている。</p> <p>●ルーペの使い方に関する問いは、県の平均正答率を12.4ポイント下回っている。</p>	<p>・ルーペや顕微鏡の使い方を正しく理解させたい。実験道具の使い方や手順、器具を扱うときの注意点は、定着させていきたい。</p>



# 宇都宮市立清原中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	56.6	59.6	56.1
	読むこと	58.3	61.6	59.1
	書くこと	48.0	55.2	51.9
観点	知識・技能	60.9	64.7	61.9
	思考・判断・表現	47.3	52.4	49.1
	主体的に学習に取り組む態度	51.1	56.1	52.5



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>本校の平均正答率は、県の平均とほぼ同じだが、市の平均よりも3.0ポイント低い。</p> <p>○英文を聞いて、数や教科を表す絵を適切に選ぶ問題では、県の平均正答率よりもそれぞれ5ポイント、6.3ポイント高い。</p> <p>○対話の内容を聞き取り、場所や時間についての応答を正しく回答する問題では、県の平均正答率よりも約1.0ポイント高い。</p> <p>●英文の要点を聞き取る問題では、3.0ポイント低い。</p>	<p>・授業内でのクラスルーム・イングリッシュの使用頻度を高めることで、生徒が英語を聞く機会を増やしていく。</p> <p>・説明文や対話文を聞き、概要を捉えたり必要な情報を把握するような場面を増やしていく。</p>
読むこと	<p>本校の平均正答率は、県の平均とほぼ同じだが、市の平均よりも3.3ポイント低い。</p> <p>○疑問詞whenの語形・語法を理解しているかを問う問題では、県の平均正答率と同じである。</p> <p>○必要な情報を読み取る問題では、県の平均正答率と比べて、3.5ポイント上回っている。</p> <p>●一般動詞の過去形の疑問文やbe動詞wereの語形・語法を理解度を問う問題では、県の平均正答率よりもそれぞれ6.6ポイント、7.9ポイント下回っている。</p>	<p>・授業内の会話活動を通じて、語形や語法の知識・理解を定着させる。また、キーフレーズとなる語形・語法を使って、自分のことを表現する英文を書く機会を多く設ける。</p> <p>・語形や語法の知識を定着させた上で、まとまった英文から必要な情報や内容を読み取る練習機会を増やす。</p>
書くこと	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも3.9ポイント低く、市の平均よりも7.2ポイント低い。</p> <p>○疑問詞whichを使って、対話の流れに合った英作文を書く問題では、県の平均よりも2.5ポイント高い。</p> <p>●与えられた情報に基づいて、三人称単数現在時制の肯定文を書く英作文の問題では、県の平均よりも11.9ポイント下回っている。</p>	<p>・正しい語形や語順を身につけさせた上で、簡単でも自分のことについて表現する(話す・書く)機会を授業内で多く設ける。</p> <p>・定期的な単語テストの実施などで、語彙力を身につけさせるような活動を行い、生徒が自分で学習できるような方法を指導していく。</p>

## 宇都宮市立清原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分で計画を立てて勉強している。」「学校の宿題をしている。」「学校の授業の予習をしている。」「学校の授業の復習をしている」など、家庭学習に関わる項目では、肯定的な答え「はい」「どちらかといえば、はい」と回答している生徒の割合が高い。特に「授業の予習をしている。」では、県平均を5.3ポイント上回った。今後も自習学習への取組を推奨し、その内容や質を高めていきたい。

○「学習して身につけたことは、将来の仕事や生活の中に役立つと思う。」や「授業を集中して受けている。」の質問では肯定的に答えた生徒の割合が90%以上と高く、いずれも県や市の平均を上回っている。社会体験学習の事前・事後学習や各教科での指導の成果であると考えられる。今後も一人一人の生徒が自己の特性について理解を深め、自らの生き方を探求するとともに、適切な進路の選択・決定ができるよう指導・支援に努めていきたい。

○「学校の決まりを守っている」「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」という質問では、9割以上の生徒が肯定的に答えていて、規範意識や思いやりの心をもっている生徒が多い。今後も学校と家庭、地域が連携して、指導や称賛を繰り返し行い、豊かな心を育てていきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」という質問では、肯定的な回答が50%を下回った。生徒を前面に出し、見守り・見届ける指導を続けるとともに、グループ・エンカウンターを取り入れた授業実践などを通じた、互いを認め合い、学級への帰属意識を高めるような学級作りを行ってきたい。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」や「クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」という質問では肯定的な回答が7割を超えているが、自分の考えを根拠をあげながら話したり説明したりするまでには至っていない。各教科において、思考力・判断力・表現力等の育成に引き続き努めていきたい。

## 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標にむかってあきらめずに、粘り強く学びに向かう生徒の育成</li> <li>・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自主学習ノート」の運用と適切な家庭での学習課題の提示</li> <li>・AIDリルの活用</li> <li>・学校図書館の活用</li> <li>・チームティーチング等の効果的な指導法</li> </ul>	<p>「家で自分で計画を立てて勉強をしている」に肯定的に回答した生徒の割合が、県平均を4ポイント上回っている。</p> <p>「家で学校の宿題をしている」に肯定的に回答した生徒の割合が、県平均を3.7ポイント上回っている。</p>

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>・与えられた情報や資料に基づいて、自分の考えや自己表現する問題において、正答率が県平均を大きく下回っているものがいくつかあった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力・判断力・表現力等の育成</li> </ul>	<p>思考力や表現力を育成するために、朝の10分間読書を推進し、授業での図書の活用や図書室の積極的な利用を促す。</p> <p>授業では、「自分の考えを書く活動」と「話し合い」の活動を位置付けて、級友との対話を活かし、自らの学びを深めることができる生徒の育成を目指す。</p>